

授業者も参加者も創る!!高まる!!広げる!! 西部の国語の未来へバトンをつなぐ

令和2年12月発行
西部教育事務所

宿毛小学校は、昨年度に引き続き、2度目の授業づくり講座拠点校でした。これまで取り組んできた国語科授業づくりの研究の積み上げのもと、たくさんの提案をしてくださいました。宿毛小学校HPにも研究のあゆみが詳しく掲載されています。



学年: 第5学年
単元名: 「和の産業・文化を調べよう」 - 総合的な学習の時間に『すくも〜ら』を作るために -
言語活動: 自分が選んだ産業や文化の魅力について、パンフレット『すくも〜ら』に書いて紹介する。

9/4 (金) 教材研究会 → 10/16 (金) 授業研究会

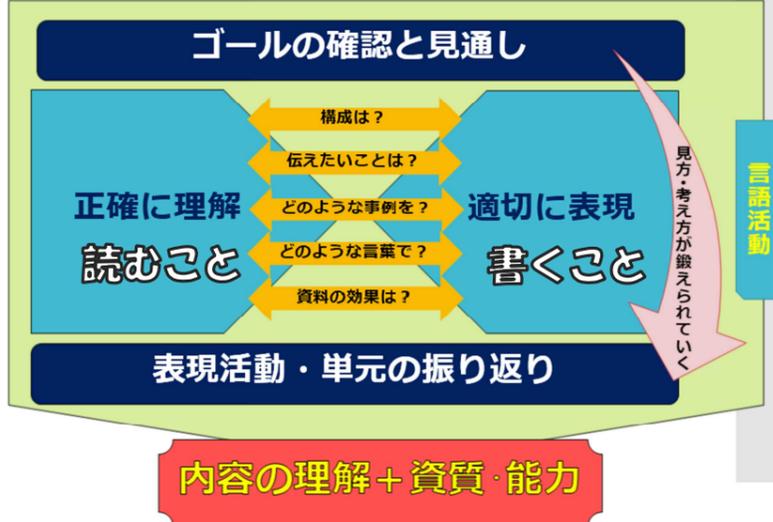
授業者
今城知亜希 教諭



単元構想の特徴

- ★「読むこと」と「書くこと」の指導事項を設定
- ★総合的な学習の時間と関連させた単元を作成
- ★「書く」ために必要な情報を「読む」学習となるように、**理解と表現を繰り返す**単元構想を提案

知識及び技能	思考力,判断力,表現力等		学びに向かう力,人間性等
(2)イ 情報の整理	B 書くこと エ 考えの形成,記述	C 読むこと ウ 精査・解釈	
情報と情報との関係付けの仕方,図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。	引用したり,図表やグラフなどを用いたりして,自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。	目的に応じて,文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり,論の進め方について考えたりすることができる。	言葉がもつよさを認識するとともに,進んで読書をし,国語の大切さを自覚して,思いや考えを伝え合おうとすることができる。



教材研究会

授業づくりの起点は、育成を目指す「資質・能力」を明確にすることです。そこで、教材研究会では、単元13時間のうち、重点指導事項に関わる5時間の「まとめや振り返り」を考え、そこに向かうための「めあて」を検討しました。**指導事項と教材,言語活動**の関わりをじっくりと考えることで、この3要素の関係性の重要性、またその組み立ての難しさも感じる時間となりました。



講師による助言・講話より

小学校国語科 授業づくり講座 講師 前鎌倉女子大准教授 松永立志先生

- ### 国語科のもつ特性
- ◆国語(言語)は、全ての学力の基盤
 - ◆指導事項が抽象的
 - ◆言葉による見方・考え方を働かせて資質・能力を育成
 - ◆言語活動(相手・目的)の充実が重要

テーマは可視化



①資質・能力と教材の関係性を可視化

教材研究において活用すると良いツール
*トラック図(話すこと・聞くこと,書くこと)
*全文シート(読むこと「物語」の読解)
*文章構成図(読むこと「説明文」の読解)

②対話的な学びを可視化

何のために対話をするのか?
*「先生の指示で対話させる」から、「子供自身の必要感から対話する」に変えていくことが必要!

③子供に言語活動の必然性を可視化

適切な言語活動で言語能力をメタ認知
*学習に向かう思いや願いがあるか?
*相手意識・目的意識がもっているか?

④言葉による見方・考え方を可視化

AとBの関係性を意味付ける

A
事象
人物

→

関係性を比較・検討することで理解し、説明する

B
言葉

⑤情報処理活用プロセスを可視化

情報処理(問題解決)のプロセスとは?
①課題の設定②情報の把握・検索・利用③情報の収集・選択④情報の加工⑤情報の表現・伝達⑥情報の保存⑦学習活動の評価

⑥指導と評価を可視化

インプットとアウトプット
*理解・吸収したことを生かして表現する活動を繰り返すことが大切!
子供自身が主体的にPDCAを回す
*個人の「めあて」をもたせ、そのことを「振り返り」→次の学びへ!

本時の目標

C 読むこと
ウ 精査・解釈

目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。

授業では、今城先生が「**違う資料ではだめなのか**」や「**この資料でなければならないのはなぜなのか**」と問うことにより、子供達は、文章を根拠に資料との関係性を捉え直していました。
これまでの「**説明するには、資料がある方が分かりやすい**」という漠然とした考えから、「**伝えたい内容に合わせて資料を活用すると分かりやすい**」というように考えを深めることができ、自分の文章に活用する資料をもう一度見直す必要性を感じていました。

教師：発問により見方・考え方を引き出している姿

T: みんなが選んでいるその資料で、伝えたいことが、本当に伝わるかな?

T: 文章と資料が合っているだけではいけないのかな?

T: ここで、この資料が必要なのはなぜだろう?

T: 写真がなかったらどうかな?

C: う〜ん... 次の時間に見直したい。

C: 伝えたいことと関連させた資料を使うと良いんだね。

C: だから手が写っている写真が必要なんだ。

C: 筆者は、●ページ△行目の「昔ながらの手作業によって作られている」ことを伝えたいんだよね。

C: どういうお菓子なのか、形や種類が分かりにくいよね。

C: 「羊羹」や「もなか」は言葉と写真が繋がっていたね。

児童：見方・考え方を働かせ、根拠をもとに思考を深めている姿